

おおしょう

尼崎市立大庄小学校

学校だより NO. 3

H30. 6. 1

健体康心(けんたい こうしん)

色とりどりのあじさいの花が町を彩る季節になりました。大庄小学校は、今年度、体育大会を6月に開催いたします。いよいよ明日が本番です。子どもたちには、毎日の練習を通して体力向上はもちろんのことですが、他に「友達と息を合わせる」「友達を応援する・応援してもらう」「がんばれば、できるようになる」等の経験を積み、自己肯定感や友達と物事を成し遂げる達成感をもつことで豊かな心が育まれています。体育大会という大きな行事を通して得たものを、これからの学年の活動や学習・生活にいかされていくよう学校での取り組みを充実していきたいと思えます。

さて、子どもたちの「体力向上」について考えたいと思えます。全国的な統計によりますと、子どもたちの体力が一番低下した時期に比べると、現在は少し持ち直してきたとはいえ、依然として子どもの体力向上は教育課題です。本校も、めざす子ども像に「かしこく(知) やさしく(徳) たくましく(体)」とあげております。子どもたちの普段の様子を観察すると、登校してから朝の活動が始まるまでの自由時間、外で元気よく遊ぶ姿が見られます。このように朝から「さあ、今日も始まるぞ」と活動できる子どもたちがいる一方で、気になる様子の子もいます。

- ・授業中に姿勢を保つことができず、教師に注意を促される
- ・ひじをつく、ほおづえをつくことが多く、背骨をシャンとたてることが難しい

いずれも、子どもたちに自分の体を支える基礎的な体力がなくなっているのでは・・・と心配になります。体力があるということは、「疲れにくい」「けがをしにくい」「病気になりにくい」「ストレスに対する抵抗力がある」等々、生きていくうえでとても大切なことです。体力は自分を支える力、生きる原動力と言ってもよいかもしれません。体力が向上すると、脳が活性化し、学習の効果を高められるということも言われています。

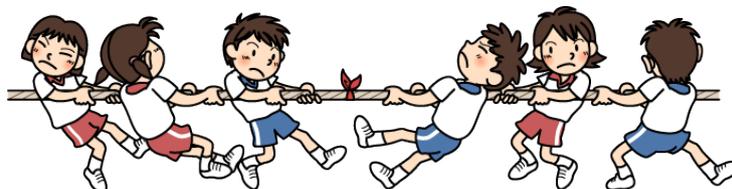
運動の上手・下手は関係ありません。体を動かすことに気持ちよさを感じ、体を動かすことを面倒くさがない子どもたちになってほしいと思えます。

この3週間、体育大会の練習で子どもたちの運動量はぐんと増えています。体育大会への取り組みだけで終わってしまうのではなく、今後も体育の授業を工夫して運動量を確保したり、外遊びを奨励したりして全校で体を動かす機会を意識していきたいと思えます。

「健体康心」～健康はこの四字熟語が縮まってできた言葉といわれています(諸説あり)。

健康な体と安らかな心を育んでいきたいです～

これから梅雨本番を迎えますが、晴れた日には、子どもたちが元気いっぱい活動する姿が見られますように・・・



(校長 峯本千鶴)